兵庫県県民生活審議会１回全体会（議事要旨）

１　日　時　　平成２８年６月２２日（水）１０：００～１２：００
２　場　所　　ラッセホール５階ハイビスカス
３　出席者　　委員：岩木委員、金谷委員、金曽委員、木田委員、五嶋委員、小西委員、鈴木委員、滝川委員、田端委員、鳥越委員、中村委員、野崎委員、増田委員、森委員、森川委員、山口委員、山﨑委員、山下委員
県側：山口政策創生部長、東元県民生活局長、久戸瀬県民生活課長、藤本県民生活課参事、梶本消費生活課長、木村県民生活課副課長、菅野消費生活課副課長、小木曽生涯学習班長、小島参画協働班長、石田主幹、幹事課室ほか関係職員
４　議　事　　（１）これまでの審議経過及び今後の審議内容
（２）部会設置及び審議スケジュール
５　主な内容
（１）会長・副会長の選任
（２）意見交換等

参画と協働の推進について

〈自立・自発〉

○　よりよい地域社会をつくっていくためには、県民一人ひとりの自立や自発につながる取組が重要な視点となる。
○　一人ひとりが自分たちの住むところに対して問題意識を持つことが重要。裾野は広がってきていると実感。活動の質を高めるためには、中間支援機能が重要。
○　自助、共助、公助というそれぞれの役割分担がどうあるべきなのかということ、住民と行政の距離を近づけることも中間支援の大事な役割である。

〈情報発信〉

○　兵庫県のボランティアの取組みを全国発信していきたい。
○　若い世代が県民生活・消費生活という知識情報を把握し、それらを選択して行動できるよう自らも発信し、活動を行いたい。

〈活動・交流拠点〉

○　地域で活躍・活動している地域づくり団体が一度に会して活動を発表できる場が西播磨だけでなく、全県域での発表の場があればいい。
○　公民館にいつも誰かが常駐して、地域の県民交流広場まで行くことができないお年寄りのたまり場として、公民館を活用してはどうか。

〈人材育成〉

○　冒険ひろばのプレーリーダーとして、社会人、大学生、高校生が活躍してくれている。大学生は忙しく、高校生の参画を進めていくことが重要である。また、活動に楽しい要素がないと継続しない。

○　「シチズンシップ」「市民性教育」がキーワード。生活の基盤となる“ふるさと”を理解することが重要であり、どう生涯学習と結び付けていくのかを考える必要がある。

〈課題等〉

○　これまでは「後追い行政」で、起こったことに対応してきた。これからは、「先回り行政」により、県民の暮らしの安全・安心を確保していくことが重要。

○　「参画と協働」は普通に用いられる言葉になり、一体どういった中味であるのか思考停止している面もある。言葉が一般的になったが故に、中味をつきつめて考えなくなった気がする。

○　阪神・淡路大震災の経験から十分学んでいるのかを考える必要がある。「先取りの行政」という言葉が出たが、震災では、急に高齢社会が出現し、避難所・復興住宅など高齢化率４０％を越えるコミュニティを運営してきた実績がある。そういった経験が生かされているのか疑問。

安全安心な消費生活の推進について

〈自立・自発〉

○　消費者被害を特徴づける高齢化、情報化、国際化、悪質化に対抗していくため、消費者自身が自らの力で守り、力をつける必要がある。

○　訪問販売は、消費者の自由が制限されるという問題があり、高齢者が狙われやすい。自身で学ぶことも大切であるが、他人に聞いたり、頼ることから始める。

〈人材育成〉

○　くらしの安全・安心推進員の研修の場があまりないので、研修の場をつくって欲しい。

○　消費生活に無関心で、消費者というのを身近に感じていない学生が多いので、そのような学生に対するアプローチが必要

〈情報発信〉

○　子ども達が、今生活力がなくなってきているので、子ども達に生きる力、判断する力をつけさせるための情報を提供してあげたい。

〈産業・雇用〉

○　男女とも結婚願望が低下している。男性は、相手を養っていけないというのが大きな理由。つまり、これは雇用の問題である。雇用を提供しているのは企業であり、企業を育てるのは消費者である。

○　現在、商店街は崖っぷちにある。かつては日本の消費を支えていたが、今では２割に過ぎない。環境に適応しないと商店街は存続できない。

（３）部会の設置